

前年度のシンポジウムに引き続き、今年度のシンポジウムでも協力医療機関として、健康チェック・健康診断を行って頂きました。今年度は更に休憩時間に腰痛体操も行われ、多くの来場参加者の方々から喜びの声をいただきました。

【参加者の方々からの感想】

- ・自分の健康意識が高められるのでとても良い。骨密度測定もあると、高齢の方は骨粗しょう症の初期発見や予防意識を持てると思う。
- ・病院に行って血管年齢等を調べることはしていないので、自分の体の現状を知れることはとても良い。
- ・シンポジウムで健康チェックを行うことが、毎年1回の目標になる。それまで頑張ろうと思える。
- ・三障がいのシンポジウムで健康チェックを行えることがとても良い。シンポジウムに参加する楽しみが増える。
- ・腰痛体操はとても勉強になった。グループホームでも全員で実践出来そう。腰痛体操のわかりやすい資料があると嬉しい。

「障がい者が安心して暮らせる街づくりを市民と共に考える」を振り返る

群馬大学健康支援総合センター 昭和事業場 専属産業医 浅見 隆康

障がい者が安心して暮らせる街づくりを市民と共に考える、に關係者として関わらせていただきましたので、少し振り返ってみたいと思います。第一に、準備が丁寧になされていたことが強く印象に残りました。私は、援護寮「はばたき」、太田市役所で行われた2回のみ会議に参加しましたが、それ以外に何回も打ち合わせをなさっていました。核となる人たちが、どのような内容にするか事前に協議を重ね、その案を下に、実行委員会で念入りに検討し、企画していました。大きなテーマですので、意図したことが伝えきれないおそれを想定しつつ、どのような内容にすると多くの人たちに関心を持っていただけるか、自分たちの伝えたいことは何かなど、とても腐心し、準備を進めている様子が見られました。第二は、行政から当事者といった幅広い関係者が実行委員会に名を連ねていました。「市民と共に」を掲げていますので、行政関係者が関わってくださることは心強いですし、障がいを経験した人ならではの発想も取り入れることができます。みんなで取り組む、といった趣旨が活かされた実行委員会が組織されました。第三は、岡部典行氏、松本一三氏、岡田 晃氏といった精神、身体、知的障がい者団体の方々に、さらには行政経験者であった鈴木宏和氏にシンポジストとしてご協力いただき、それぞれの立場から、障がいの経験、障がいを抱える子どもを育て、見守り、自立につなげていく、といった親の取り組みなど、私自身、今後の歩む道の灯火となるお話を聞かせていただき、とても意義ある時を過ごせました。

今回のシンポジウムは3回目ということですが、今後の継続を望んでいます。今日、障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して地域で暮らす社会を実現する、とよく言われますが、このような取り組みを続けていくことは、少しずつではあっても、その実現に近づいていくのではないでしょうか。そのためには、実行委員会には当事者の方々がおりますので、その人たちにいろいろと意見を出してください、あるいは当事者として地域で暮らし、回復をめざしている方々からアイデアを公募する、といったやり方があるかもしれません。さらに連携を意識した運営、つまり今回伝えることができたこと、伝え足りなかったこと、などを振り返り次回の企画に反映させていく、そして仲間の輪を拡げ、みんなで協力し合い活動を盛り上げていく、などに留意することが大事かと思われます。

繰り返しになりますが、地域を変えていくためには行政の関わりを欠くことができません。まさに皆様の活動の強みの部分を感じています。皆さんはどのような点が強みだと捉えていますか。皆で強みの部分を見つけ合い、さらにその強みを拡げ、誰もが安心して暮らせる地域づくりに、繋げていってください。

アルカディア ニュースレター委員会 本部
群馬県太田市鶴生田町733-123 TEL:0276(20)2509 FAX:0276(20)2510

ニュースレター及び法人情報につきましては、<http://arcadia-gr.com/> でもご覧いただけます。



H30年11月18日(日)に、3回目となるシンポジウム、『障がい者が安心して暮らせる街づくりを市民とともに考える』を開催しました。多くの方にご参加頂き、ありがとうございました。第1回シンポジウムから引き続き、実行委員形式をとり、太田市を始め、当事者団体、家族会、福祉法人等様々な立場の方々で集まり、繰り返しシンポジウムの内容を打ち合わせを行い、今年度は『こころの豊かさって何?』というテーマでの開催を決定しました。障がいの有無に限らない心の豊かさ、若しくは、障がいと付き合いながら生活している方々でしか語ることのできない心の豊かさについて、シンポジストのみでなく、当日会場にお越し頂いた方々と一緒に、心の豊かさについて考えることの出来た場となったのではと感じています。

当日参加して下さった方々にご協力頂いたアンケート結果からの考察を始め、実行委員であり、シンポジストとして当日登壇された岡部氏と松本氏、当日コーディネーターとして会をまとめて下さった浅見先生へ、シンポジウムを終えて、どのようなご意見を抱かれたのか、インタビューにご協力頂きました。今回のニュースレターではそれらを掲載します。

アンケートについて

障がいのある方とそうでない方が一堂に会する機会は現在の社会ではとても少ないのが実際ではないかと感じます。しかし、その中の様々な立場の方々にシンポジウムにご参加頂いたことは、とても大きな価値をもつことなのではないかと感じます。ニュースレター委員では、シンポジウムの場をお借りして、今年度のニュースレターのテーマである『仲間』について、参加された方々にアンケートへのご協力を頂きました。その結果から見えてきた考察を掲載させて頂きます。

アンケートでは、

- ① 仲間がいて良かったことは?
 - ② どのような仲間がいると良いか?
- という質問をさせて頂きました。

①の回答では『困った時に話ができる』という旨の回答が圧倒的に多い結果になりました。それは、障がいの有無に関わらず、共感できる仲間がいるという事が、悩みを一人で抱えずに楽しく生活するうえで、とても重要であると言えるのではないでしょうか。②の回答では①で回答頂けたような相談し合い共感できる仲間がほしいという意見が多数ありました。

今回のアンケートで多くの方々に協力頂き分かったことは、シンポジウムのサブタイトルである『心の豊かさ』に対して仲間の存在がとても大きな影響を与えていたという事です。

しかしながら、そのこと以上に注目すべきことは、アンケートに回答頂いた方の中には『仲間が欲しいけれどいない』と回答頂いた方が多くいる事ではないでしょうか。そういう方々が繋がれるような場や機会をより多く広めていく事が重要なのではないかと感じました。アンケートへご協力頂いた皆様、貴重なご意見をありがとうございました。

記:ニュースレター委員

岡部 典行 氏

太田精神障害者を守る家族の会・ひまわりの会会長
群馬県精神障害者家族会連合会・群馬つづじ会副会長

『企画検討の時に、どの様な話し合いが行われていましたか？』

・企画検討の時は、委員それぞれがアイディアを持ち寄り進めています。約2時間の会議を月1回、シンポジウムまでに計9回の会議が行われました。この会議は、とても有意義な時間でした。今回のテーマにもあった『こころの豊かさ』という案が上がり、これをテーマとして進めていく事となりました。

『こころの豊かさ』について。私が思う『こころの豊かさ』は、人と人とのコミュニケーション、見知らぬ人や近所の方と“笑顔で挨拶を交わせること”です。人と人の関わりが希薄になった事が、自分以外の他者に興味が無くなっている現状を感じる為、残念ながら今の日本、地域では『こころの豊かさ』が失われてしまっているのではないかと感じます。障がい者、健常者関係なく地域が活性化するような社会にしていきたい（なってほしい）という想いを持って参加しました。

『市民の方に1番伝えたい事は？』

・“思いやりの心”です。今は生きていくために必要な物やサービス（社会福祉サービス）がすぐに手に入ります。それによって1人でも生きていいけるぐらい便利な世の中になっているため、他者との関わり、つまり助け合いが無くとも生活できる世の中になりました。しかし、その便利な社会も全ての人に共通しているわけではありません。どれだけ物やサービスが充実していても1人の力だけでは生活を続けることが難しい人もいます。その時に『他者を思いやりの心を持ってほしい』と思います。『思いやりの心=こころの豊かさ』とも言えるでしょう。

『実行委員としてシンポジウムを行おうと思った理由は何ですか？』

・自分が差別や偏見を体験して、同じような体験を他の障がいのある方にはしてほしくないという思いがあり、の中でも「どれだけ辛くても、助けてくれる人は必ずいる」という事を障がいのある方にも知ってほしいという想いがあったからです。

『委員会の裏話はありますか？』

・いろいろな方々の協力で、手話通訳等といった今まで取り組むことが出来なかった配慮面の整備が行えたことです。

『日々の暮らしで変化はありましたか？』

・交友関係が広がり、横のつながりを築けました。これは3障がいで集まることがなければ広がらなかつたかもしれません。他の障がいがある方々と色々な話をすると、聞くことで、今まで知らなかつた現状が見えてきました。

『シンポジウムの反響はありましたか？』

・来場してくださつた方から「よかったです」と声を掛けてもらいました。

『シンポジストとして壇上に立った時に何を感じましたか？』

・聞いている障がいのある方に一步踏み出す勇気を持ってほしいと感じました。助けてほしい時は「助けて!!」と声に出さなければ気付いてもらえません。自分からアプローチしていく大切さ、必要性を知ってほしいです。

『シンポジウムに達成感はありますか？』

・正直なところ「シンポジウム良かったよ」と言ってもらえると、やりがいや達成感につながります。それまでは自分の言う事に不安があつたり、発言に対して会場が盛り上がるだろうかといった心配点がありました。

『太田市のシンポジウム実行委員会が主催するシンポジウムの特色はありますか？』

・知的障がい、身体障がい、精神障がい分野の3障がいが集まって開催していることです。それぞれ単独のシンポジウムはよくありますが、市の単位で3障がいのシンポジウムをしている所はないでしょう。来場してくださる方々には多くの事を知ることのできるシンポジウムだと思います。

『今後のシンポジウムの展望はありますか？』

・来てくださつた方々に楽しんでもらいたいという思いから、来場者全員参加の演劇を行いたいです。そこには障がいのある方々、市民の方々関係なく、皆で1つの事を楽しめれば、それが会場全体の達成感になると思っています。

松本 一三 氏

生まれつき身体の障がいがある中、現在は太田市身体障害者連合会会長として活動中。

『実行委員としてシンポジウムを行おうと思った理由は？』（第1回目から実行委員として参画）

シンポジウム実行委員会の構成員になることで、色々な方（精神障がい、知的障がい）の経験を知り、自分の立ち位置を知る事が自分自身で大切と思い実行委員として参加しました。

『市民の方に1番伝えたい事は？』（今回のシンポジストとして）

身体障がいの方の中でも当事者（本人）が壁を作ってしまっている場合があります。どんな障がいでも基本的には障がい者、健常者、「お互いの気持ちの理解」が大切ではないかと思います。自分の体験談として、東京で仕事をしている時に、周りの人々は自分以外健常者であったが、あるお客様に「あなたが障がい者であつても何も気にならない」と言われ、健常者と普通に触れ合い、色々教えてくれ、自分自身が壁を作っていたことも気付くことが出来た為、前に出て、自分から行動することの大切さを伝えたいと思い参加しました。

『シンポジストとして壇上に立った時に何を感じましたか？』

各シンポジスト、参加者からの発言により、自分自身も勉強になりました。各団体のこと、障がい児（子供）、高齢化のことなど。今の社会では、団体等に加入しなくてもパソコンで色々な情報を知る事ができるとは思いますが、人と人が対面してコミュニケーションすることの大切さを再確認する場となりました。（障がい者の当事者団体でも高齢化が進んでおり、若い方の参加が少ないので課題と感じております。）

『シンポジウムの反響はありましたか？』

ポスターを貼らせて頂いた商店の方から「今回のポスターは、字が小さくて目立たない」と言われましたが、前回のポスターを覚えていて、ポスターを見てくれている事は大きなことだと思います。

『シンポジウムに達成感はありましたか？』

シンポジウム参加者から色々な質問もあり、福祉、障がいに興味を持つてくれ、理解にも繋がったのではないかと思います。毎年続け、口コミで拡げていくことが大切と感じています。

『太田市のシンポジウム実行委員会が主催するシンポジウムの特色はありますか？』

実行委員会の団体内でも、精神・知的・身体障がいの団体をはじめ、多くの団体の協力で成り立っています。また、協力医療機関では、イムス太田中央総合病院など、実行委員会のみだけでなく、様々な方からの助けを頂き実行しており、ネットワークの輪は少しづつ広がっているのが特色です。

『今後のシンポジウムの展望はありますか？』

「障がい者が安心して暮らせる街づくりを市民とともに考える」とあるように、一般（市民）の方が、多く参加し、堅苦しくなく、子供も、親も、みんなが楽しめるような場にしていきたいと思っています。

毎回シンポジウムに参加してくださつているグループホーム利用者の方の感想

シンポジウムには計3年間、毎年参加しています。参加している理由としては『参加して話を聞くことが自分のためになるから』です。今年のシンポジウムは過去2回よりも質問者からの具体的な悩み・質問に対しての答えが聞けたことがとても良かったです。

シンポジウムでの質問、回答の中に「悩みごとは信頼できる人に相談をする」という内容がありました。私は「うん。その通りだ!!」と納得する反面、「信頼できる人は誰だろう。実際、誰に相談したら良いんだろうか。」と悩みました。具体的に誰に相談したら良いかは、その人によって違うとは思いますが、『こんな悩みの時はこの場所、この人に』といった例を出してもらえると、私には分かりやすかったです。

また、司会の方やシンポジストの方に質問を伝える事や問題を伝えることはとても難しいと感じました。3障がいの方々が抱えている問題はそれぞれ違うと思います。他の障がいの方の問題を聞くことも勉強になりますが、もっと1つの障がいについての問題や答えを聞きたいとも感じました。

このシンポジウムは障がいの方、市民の方にとってもとても良い勉強の場所だと思います。私はこれからも毎年1回のシンポジウムを楽しみにして参加していきたいです。